

「せとうち発見の道」企画展

## 「朝鮮通信使と牛窓」 2018年2月27日(火)～5月27日(日)

平成29年(2017)、ユネスコ(国連教育科学文化機関)の「世界の記憶」(世界記憶遺産)に、「朝鮮通信使に関する記録」が登録されました。朝鮮通信使は、江戸時代に12回来日した友好使節団です。日本と韓国が合同で申請した登録資産の中には、本蓮寺(牛窓町牛窓)に伝わる「朝鮮通信使詩書」9幅(岡山県指定重要文化財)が含まれています。

この企画展では、朝鮮通信使と牛窓の関わりを見ながら、今回「世界の記憶」に登録された本蓮寺の「朝鮮通信使詩書」をご紹介します。

### 朝鮮通信使とは？

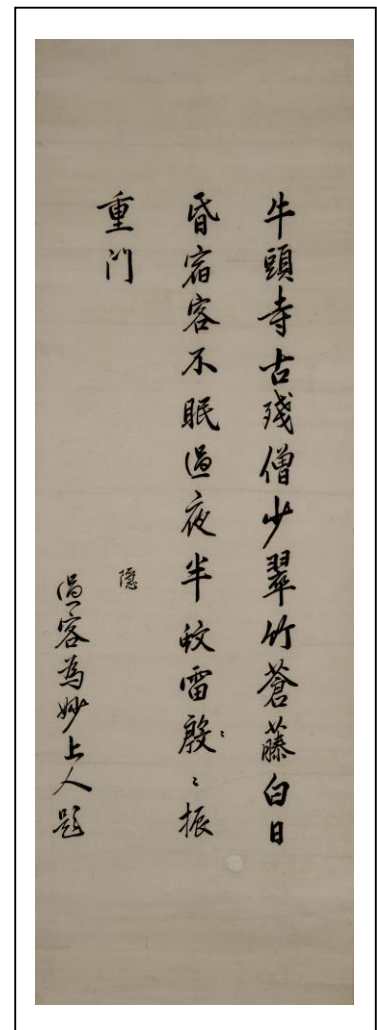
朝鮮通信使は、日本と朝鮮国が対等の関係で「信(よしみ)」を通わせた友好使節団です。江戸時代に12回やってきましたが、正確には、1回目から3回目までの使節を「回答兼刷還使(かいとうけんさっかんし)」といいました。その目的は、日本の将軍から送られた国書に対する朝鮮国王の返書を届けることと、豊臣秀吉による朝鮮出兵で日本に連行された朝鮮人を連れて帰ることでした。4回目以降、正式に「通信使」となりました。

通信使一行は、瀬戸内海を航行し、大坂の淀からは陸路で徳川将軍のいる江戸へ向かいました。通信使一行が寄港する地域では、各大名が使節を接待しました。岡山地域では、岡山藩が牛窓で接待しました。

### 「世界の記憶」Memory of the World とは？

「世界の記憶」(世界記憶遺産)は、ユネスコ(国連教育科学文化機関)が、“人類が長い間記憶して後世に伝える価値がある記録物”の適切な保存を進めるために登録するものです。「世界遺産」(World Heritage Site)が移動不可能な不動産を対象としているのに対し、「世界の記憶」は、古文書や書物などの可動文化財が対象となります。

日本のものでは「御堂関白記」(国宝)などがありますが、中世の備前福岡関係資料が含まれる京都の「東寺百合文書(とうじひやくごうもんじょ)」も登録されています。



## ●「本蓮寺朝鮮通信使詩書」9幅 解説

「世界の記憶」に登録された本蓮寺(牛窓町牛窓)所蔵の詩書9幅は、通信使の宿泊場所となった本蓮寺や牛窓の情景にも触れる内容の詩で、通信使と地域の交流を示す貴重な資料として岡山県の重要文化財に指定されています。

シンユ

### 1 従事官申濡筆 寛永20年(1643)

寛永20年(1643)に来日した第五回朝鮮通信使の従事官であった申濡(号は竹堂)が書き残した詩書。従事官は朝鮮通信使の中で正使・副使に次ぐ地位である。

宿泊した本蓮寺は大変静かで、蚊の羽音が雷のように大きく、門をふるわすほどであったと、本蓮寺に宿泊した感想を述べている。

シンユ

### 2 従事官申濡筆 寛永20年(1643)

1と同じく申濡が書き残した詩書。樹木の中に建つ本蓮寺から鐘の音が響き渡り、世俗を離れたさっぱりとした気持ちを感じることができたと述べている。

ハクアンキ

### 3 製述官朴安期筆 寛永20年(1643)

寛永20年(1643)に来日した第五回朝鮮通信使の製述官であった朴安期(螺山)の残した詩書。製述官は朝鮮通信使の中で三使などに次ぐ重要な役職で、公式の文章などを作成した。愛知県の広忠寺にはこの朴安期が揮毫した扁額が残されている。本蓮寺の「蓮」という字を取り込んで詠んだ詩で、海のすぐそばに建てられた本蓮寺に宿泊して詠んだもの。

チョヒョン

### 4 正使趙珩筆 明暦元年(1655)

明暦元年(1655)の第六回朝鮮通信使の正使趙珩(翠屏)の書き残した詩書。雲の立ちこめる林の中に建つ本蓮寺で、読経の音が響き、悟りの境地を感じることができたと感慨を詠っている。

ユチャン

### 5 副使兪場筆 明暦元年(1655)

明暦元年(1655)の第六回朝鮮通信使の副使兪場(秋潭)の書き残した詩書。本蓮寺に、古き塔頭の残る様子を感じ、仏教の世界に思いをはせたことを詠っている。

本蓮寺での接待はこの回までで、次の天和の朝鮮通信使からは藩の御茶屋が接待場所となる。

イムスカン

### 6 副使任守幹筆 正徳元年(1711)

正徳元年(1711)の第八回朝鮮通信使の副使任守幹(靖庵)の書き残した詩書。本蓮寺の読経の声から、清浄な世界を感じた様子がうかがえる。

イハンオン

### 7 従事官李邦彦筆 正徳元年(1711)

正徳元年(1711)の第八回朝鮮通信使として来日した従事官李邦彦(南岡)の書き残した詩書。牛窓における眺めを愛でて詠んだもの。

イヒョン

## 8 製述官李 磻 筆 正徳元年（1711）

正徳元年（1711）の第八回朝鮮通信使として来日した製述官李磻（東郭）の書き残した詩書。丘の上に立ち並ぶ本蓮寺の建造物や夕暮れに響き渡る鐘の音などを詠み込んでいる。

ナムソンジュン

## 9 書記官南 聖 重 筆 正徳元年（1711）

正徳元年（1711）の第八回朝鮮通信使として来日した書記官 南聖重が書き残した詩書。南聖重の父南龍翼（壺谷）も第六回の朝鮮通信使として来日したことがあり、その詩書を清見寺（静岡県）で見たが、ここ本蓮寺でもふたたび父の遺墨に接して感激したことが記されている。

なお、南龍翼の詩書は現在のところ確認されていない。

◆解説出典『港町の古刹 法華宗 経王山本蓮寺 寺宝と歴史』（本蓮寺、2011年）

## ●朝鮮通信使を接待するために村人が負担した役割の記録

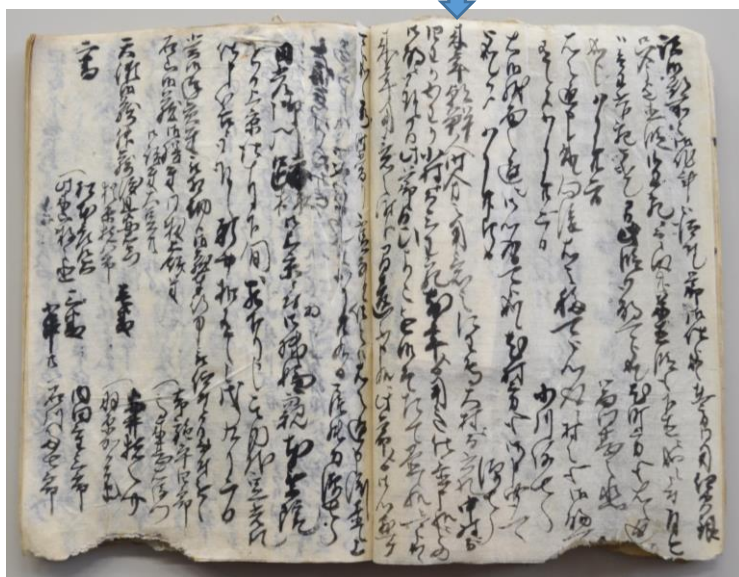
岡山藩は牛窓を接待場所とし、様々な準備をして使節を迎えました。牛窓では、一行の宿泊場所を確保するため、民家までも借り上げられ、住民は一時的に立ち退かなければなりませんでした。

しかし、負担は牛窓だけにかかったわけではありませんでした。瀬戸内市内に残る古文書には、邑久郡全域の村々が、食材や燃料など様々なものを調達するよう命じられ、人員が動員されたことが記されています。

ねがいのしなじなかきとめちよう

## 享保三 願 品々書留帳 享保3年（1718）渡辺家文書

村役人の公務記録の中に、享保3年（1718）に来日した第9回朝鮮通信使を接待するため、来訪直前に鶏卵を備蓄するよう命じられた記録があります。邑久郡内の村々が、あらかじめ鶏を数羽ずつ育てておくように命じられています。



来年朝鮮人時分之用意之には鳥、大村にて六把、中村にて四わか五わか、小村にて三宛宛、前年より用意仕置申様二との御触二御座候・・・

左の帳面には次のような記述があります。（↓）